



なぞって練習

ではその女房をしい  
るといふ女たちなの  
であらうと源氏は解  
釈して、いい気にな  
って、物馴れた戯れ  
をし、かけたものだ  
と思ひ、下の品であ  
らうが、自分を光源  
氏と見て詠んだ歌を  
よこされたのに対  
して、何か言わね  
ばならぬという気が  
した。といふのは女  
性にはほだされやす  
い性格だからである。  
懐紙に、別入のよう  
な字体で書いた。

■ 参考

※物馴れ【ものなれ】

※詠んだ【よんだ】

※懐紙【ぶとしろがみ】

(青空文庫のフリガナより)